

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820023

研究課題名（和文） 初期パーンチャラートラ文献研究

研究課題名（英文） Three early Pancaratra Texts from Nepal

研究代表者

ACHARYA DIWAKAR（アーチャールヤ ディワーカラ）

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90612698

研究成果の概要（和文）：ヴィシュヌ教パンチャラートラ派に属する、これまで知られていなかった初期の3文献の批判校訂本を詳細な序説と要約とともに完成した。さらにこの批判校訂本に基づく研究から、中世初期のパンチャラートラ派の歴史に新たな事実・視点を提供するとともに、ヴィシュヌ教の形成期におけるシヴァ教およびヴェーダの宗教との密接な関係を解明した。また3文献のうちの1つには、ヴリシニ族の英雄信仰としてのヴィシュヌ教の古い儀礼体系を跡付けることができた。

研究成果の概要（英文）：A critical edition of three early Vaisnava Pancaratra texts with a detailed introduction and a summary has been prepared. Some light is shed on the history of Pancaratra Vaisnavism in early mediaeval period, and its affinity with both Saivism and Vedism in its formation process is explained. A remnant of the archaic Vaisnava ritual system in the form of the worship of Vrsni heroes has been traced in one of the texts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2990,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：インド古典学

キーワード：国際研究者交流・国際情報交換・Vaisnavism, Tantricism, Philology, Manuscripts

1. 研究開始当初の背景

叙事詩マハーバーラタや碑文などの資料から、すでに紀元前数世紀にある種のヴィシュヌ教が存在していたことが分かっている。しかしヴィシュヌ教パンチャラートラ派の体系については、現在利用可能な最初期のパンチャラートラ文献にも紀元前数世紀の段階を示す資料は残っていない。ジャヤーキヤ・サンヒターJayakhyasamhita はパンチャラートラ文献の中で最初期のものとされていたが、最近その儀礼体系ですらも、シヴァ教諸派との競合による改革後のものであることが証明された(A. Sanderson, *The Saiva Age. The Rise and Dominance of Saivism during the Early Medieval Period*, in Shingo Einoo (ed.): *Genesis and Development of Tantrism*, Tokyo: Institute of Oriental Culture, 2009, p. 61) 一方、このジャヤーキヤより古いパンチャラートラ文献が存在していたという文献的証拠がある。そのため、本研究者はネパールに保存されている写本群を調査し、そのようなヴィシュヌ教文献を伝えるいくつかの古い貝葉写本を発見した。これらの文献は、これまで利用可能であったパンチャラートラ派文献の最初期のものよりも古く、したがってこの宗教体系の歴史に新たな視点を与えることができる。本研究者によるこの価値ある文献群の発見については、Sanderson 2009 において既に言及されている。この文献群の中から、特にパンチャラートラ体系がシヴァ教と競合し改革される初期段階についての証拠を与える3つの文献を最初の研究課題として選び、準備段階として現代文字への書写を作成した。この3文献は、スバヤンブヴァ・パンチャラートラ Svayambhuvapancaratra (以下 Svayambhuva)、アシュターダシャ・ヴィダーナ

Astadasavidhana (以下 Astadasa)、およびデーヴァームリタ・パンチャラートラ Devamrtapancaratra (以下 Devamrta) である。この3文献は、カトマンドウの国立文書館に保存されている2つの古い貝葉写本に保存されている。Svayambhuva と Astadasa が収録されている写本の制作年代はネパール歴 147 年 (西暦 1027 年に相当) であるが、Devamrta が収録されている写本の製作年代は不明であるが、字体から12世紀のものともみなすことができる。このようにこれらの写本はその内容のみならず、古い貝葉写本として資料自体が重要である。

2. 研究の目的

(1) この研究課題の主たる目的は、上記の3文献についてシヴァ教文献、ヴェーダ文献などにおけるパラレルも含めた、文献学的に質が高くかつ資料として有用な批判校訂本を準備することである。

(2) これらの文献の批判校訂本に基づく文献学的視点からの研究によって、これまで曖昧なままであったヴィシュヌ教パンチャラートラ派の中世初期の歴史を新しい資料に基づき再考し、またシヴァ教とヴィシュヌ教の両者の形成過程における相互関係を探求する。

(3) 研究過程で、少なくとも1人か2人のネパール人研究者に文献学的方法論を実地に学ばせ、彼らが将来ネパールに伝わる写本から未出版の文献を批判校訂できるようにするための訓練を行う。

3. 研究の方法

(1) まず主にデジタル画像を用いて、前もって準備していた現代文字への書写を写本と照合し、文献学的方法に従って批判校訂本の草稿を準備する。その間に、批判校訂本の序

説で扱われるべき重要な諸問題を同定し、文献批判の問題を論じるための準備をする。Devamrta の写本は不完全で年代が同定できないため、字体の特徴を年代が確定されている他の写本と比較し、仮定していた年代を実証する。

(2) 他文献との相互関係を含めた批判校訂本の草稿を完成させる。他文献との関係を明確にするために、批判校訂本には3層のCritical Apparatusをつけ、最下層には写本の異読、中層には他の文献との対応箇所、最上層にはその文献で示されているヴェーダのマントラ（真言）を記録する。また、他の研究者の便宜をはかるために、文献のすべての詩節と、これらの文献において引用されているヴェーダの詩節との2種類の索引を作成する。

(3) 作成した批判校訂本をもとに文献の詳しい内容梗概を作成する。また、批判校訂版に資料として記載されているシヴァ教・ヴィシュヌ教の他文献、およびヴェーダ文献との関係について分析し、序説としてまとめる。

(4) 批判校訂本の最終版を完成するために、カトマンドゥの国立文書館において写本の原本との照合を行う。特に表面がこすれて判読が困難な葉の解読に努める。またカトマンドゥ滞在中には、作成した批判校訂本を数人の研究協力者と講読・討議し、改訂に役立てる。

(5) 研究協力者とともにカトマンドゥ溪谷地域のヴィシュヌ教寺院を調査し、新たな文献資料に基づき再考した初期のヴィシュヌ教史を再検討する。

4. 研究成果

(1) 主目的であった3つの文献すべての批判校訂本を完成し、また詳細な序説と内容梗概を作成した。この成果は来年ボンディシェリより発行される『初期タントラシリーズ』

の1巻として出版される予定である。この『初期タントラシリーズ』は、Peter Bisschop（ライデン大学教授）、Dominic Goodall（フランス極東学院教授）、Harunaga Isaacson（ハンプルク大学教授）と本研究者が編者を務めるシリーズである。現在他の編者の査読を受けて、出版にむけての最終版を作成中である。

(2) これら3文献の中で最古の文献であるSvayambhuvaについては、シヴァ教の最初期の聖典であるニシュヴァーサ・タットヴァ・サンヒターNisvasatattvasamhitaと密接に関係していることが判明した。また次に古いDevamrtaには、シャーンカーヤナ・グリヒヤーストラSamkhyanagrhya sutraを初めとする後期ヴェーダ文献の影響の跡がある。もっとも興味深いのは第三の文献Astadasaである。この文献には、ヴリシニ族の8人の英雄の崇拝が記述されており、これはシヴァ教儀礼の影響を受ける前の古風なヴィシュヌ教の儀礼体系の名残であると解釈できる。ヴリシニ族の英雄の崇拝についての証拠は、ヴァーユ・プラーナVayupuranaや碑文にもみられるが、そこでは崇拝されている英雄の数は5人であり、Astadasaの記述はその点で非常に特異である。これらの要素はすべてこれまでに未知のものであり、ヴィシュヌ教パンチャラートラ派の形成過程を考える上で非常に貴重な資料を提供する。

(3) 本研究課題の遂行中に、カトマンドゥのネパール研究センターおよびネパール・サンスクリット大学のNirajan Kafle氏およびBhim Kandel准教授の2人から研究協力を得ると同時に、かれらに対してサンスクリット写本の校訂研究に関する指導・援助を与えることで、この2人のネパール人研究者を写本の校訂研究に触発することができた。また本研究のための写本照合への協力を通じて、院生に写本解読・研究の現地訓練をすることが

できた。

(4) このプロジェクトのもう一つの成果は、同じような興味を抱く学者たちとのつながりである。この研究期間中、フランス極東学院の Dominic Goodall 教授、ネパール・サンスクリット大学の Madhav Sharan Upadhyaya 教授、カリフォルニア大学の Sthaneshwar Timalsina 教授、カトマンドウの国立文書館の Raju Rimal 氏と定期的に連絡をとり、意見交換を行った。2012 年 1 月には第 15 回世界サンスクリット学会に参加し、これらの文献に関係する問題について 2 つの成果報告を行った。また、2012 年 6 月にオランダのグローニンゲン大学で行われたシンポジウム、および 2013 年 2 月にネパールのルンビニで行われた国際学会において研究成果を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① ACHARYA Diwakar, Neti neti. Meaning and Function of an Enigmatic Phrase in the Gargya-Ajatasatru dialogue of Brhad-*aranyaka Upanisad* II.1 and II.3. *Indo-Iranian Journal*, Volume 56, no. 1, 2013, pp. 3-39. 査読有 DOI: 10.1163/001972412X620402
- ② ACHARYA Diwakar, Review of *Mimamsa-nyayasamgraha*: A Compendium of the Principles of Mimamsa by James Benson, *Nagoga Studies in Indian Culture and Buddhism: Sambhasa*, Volume 30, 2012, pp. 82-84. 査読有
- ③ ACHARYA Diwakar, The Patravidhi: A Lakulisa Pasupata Manual on Purification and Use of the Initiate's Vessel, *Sanskrtasadhuta: Studies in Honour of*

Professor Ashok N. Aklujkar, Edited by C. Watanabe, M. Desmarais & Y. Honda. New Delhi: D.K. Printworld, 2011, pp. 1-28. 査読無

- ④ ACHARYA Diwakar, Pasupatas, *Brill's Encyclopedia of Hinduism*. Volume III, 2011, pp. 458-466. 査読無

[学会発表] (計 4 件)

- ① ACHARYA Diwakar, Beyond the Transmitted Text: On Some Varieties of Information Obtained from Manuscripts, Kern Lecture, 2012 年 6 月 7 日, Leiden University, Netherlands.
- ② ACHARYA Diwakar, Loose Women and their Property: An Insight into Maligaun Inscription of Visnugupta dated in Licchavi Samvat 57, Epigraphical Evidence for the Formation and Rise of Early Saivism: The Religious Landscape at the Time of the Composition and Spread of the Skandapurana, 2012 年 6 月 4~5 日, University of Groningen, Netherlands.
- ③ ACHARYA Diwakar, The Siddhanta Saiva concept of the primordial dark substance (mala) and the three conditions of souls, The 15th World Sanskrit Conference, 2012 年 1 月 5~10 日, New Delhi, India.
- ④ ACHARYA Diwakar, Consecration of Visnu's image according to two earliest Pancaratras. The 15th World Sanskrit Conference, 2012 年 1 月 5~10 日, New Delhi, India.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ACHARYA DIWAKAR

(アーチャールヤ ディワーカラ)

京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：90612698